

護憲リブンド

政憲革の二太夫が 味だめしの箸を取る

満更でない味なニホヒに 結局奪ひ合へか

石城の憲派は比佐君を逃二無二擔ぎ上げては見たもの三派提携と銘打つたお手製料理の「護憲」ドンブリも満更でない味な匂ひをはなつて居る處から「武士は喰はね」高楊子を氣取つて居るのも野暮の骨頂と来る十一日正午を期して政革兩太夫と共に住吉屋本店に味だめしの箸を取る事となり若し味がよかつたらヒモジイ腹を抱えて皮肉の嘆に耐えない比佐君の爲めに「護憲」ドンブリの提供方を「お願ひし奉る筈だが腹のヘツタ時マツイ物なしの下世話の通りセメテ當日だけでも腹一杯に詰り込んで今から喉から手を出して待つて居るしかし一方革新太夫も「腹はヘツテもヒモジウない」と千松氣取りで乙に濟しては居るものウツカリ「護憲」ドンブリを比佐君にせしめられてはイッ何時こんな御馳走の前に座る事が出来ようかと鼻をヒコつかせて居るし又政友太夫はつねに御馳走は喰ひあきてラクが胸迄こみ上げては居るけれど多少喰ひ意地が張つて居て、うまい物となれば食傷や食當りも考へずにツマミ込む癖を持つて居るから、ハテ一体「護憲」ドンブリは誰が

梅の便り

三分咲の姿

松ヶ岡公園天神宮ほとりの梅は三分咲の姿を見せ清香をはなつて居る、カメラマン等の杖ひく向も可成りに多いが明後日の日曜頃が丁度見頃であらう

遺族弔慰金

入山の惨死者

入山探炭株式會社にては十三名の坑内惨死者の遺族に對し千圓乃至千七百五十圓總額一萬六千圓を支給する事となつた

紙幣束を拾ふ

遺失主判明

平町南町平看護婦會内の坂本シゲ子と金成ハツイは昨日二丁目道路で五百圓の紙幣束を拾得し平署に届けたが本日一丁目日進堂の娘が遺失した事判明五十圓の謝

書き残したる述懐書

是れぞ皇國の寶なる

今日の大越會で彈奏する 『大越中佐の最後』

本七日は大越中佐が奉天の大激戦にて戦死した命日である爲め午前十一時から墓前祭を執行し終つて午後一時から内郷第二小學校に於て講演會を催し植竹源太郎氏其他の講演あり平手錦輝氏の『大越中佐の最後』の琵琶ある筈であるが同琵琶は植竹氏の作歌に平手氏が曲を附したものであつて左

禮を受けた 養蠶桑園講演石城郡澤渡村にては九日午後一時から同村小學校に於て養蠶及桑園の講演會を催す由 世間から顧みられぬ

炭礦労働者の待遇

人道の光りに浴せしめよ 改善の餘地が多い

常磐の炭界は比較的好況に向へつつある爲め各炭礦共に出炭率の増加を圖り世間とは全々没交渉の地底に働く炭礦労働者の待遇も漸次向上しつつある模様だが未だ未だ改善の餘地が多く某先覺の士は次の如く語つて居た「婦人と小供を炭礦に使役して居るのは世界で日本とインドの二國よりない、かつてドイツに行つた時彼地の労働組合の幹部が「女子や子供を日本で使役するのですか」といつて非常に驚いた事があつた位だ金屬山の坑内労働は兎に角として日本では炭礦内の労働状態は實に問題にならぬ非人的の道ものだ労働時間が大抵

父兄懇話會

平第二小學校にては十日午前八時から父兄懇話會を兼ね音楽演奏會を催す筈だが郡下の各小學校から生徒を招待すと

募集

文藝其他一般投稿を募集します 活が保つて居るのに何故に炭礦労働者に限つて夫婦共かせぎで足らず子供まで働かざれば生活出来ぬかといふ問題を知らたいと思ふ

眞面目な問題

眞面目な問題 (五七) 個性の分化 眞面目な問題 (五七) 個性の分化 眞面目な問題 (五七) 個性の分化

珍聞奇聞

少年自殺 静岡岡縣篠原小學校高等科三年山本彌平(一)は大人と賭博をしたと教師に叱責されて自殺したと驚いた校長様 京都府福知山高等女學校校長藤山豊は自習指導を名とし寄宿舎の女生徒二名を犯す

美善

六日の夜半帝國館の歸り客が本町通りを家に急ぐ時丸龜吳服店の立看板が路上に倒れて居た、多くの人は夫れにケツマツイでも別に起さうとする程の親切を拂はなかつたが卅歳前後の人が早速其處に立止まり看板を立掛けて過ぎ去つた僅かな事ではあるが感心な人で

不平受付

投書募集 驛前水道の排水 平停車場入口の水道の水は何處へ流れますかいつも附近がビショ／＼して居て歩くのに困るんです(草履生)

公人私人

鈴木榮氏(小名濱町)警務課の事務を行はしむべき旨通信省から指定さる 中尾都山氏(尺八都山流宗家)六日來平杉平なる琴曲大家上原佐喜氏方に滞在 平一鶯女史(小原流生花教授)九日南町平看護婦會に出張演華や盛花を指導する

電話開通式

十日から全通 石城郡江名町にては十一日午前十時から漁業組合事務所に於て電話開通式を舉行する筈であるが電話は十日から全通する由

平町人事

出生 振堀小路 鈴木鐵之介氏長男鐵夫 胡麻澤 久保本國次郎氏三女芳子 白銀町 早川喜太郎氏二女正子 堂の前 若本教太郎氏二女糸子 村木町 北郷信太郎氏四男政三 紺屋町 松田榮橋氏二女ケイ 死亡 古鍛冶町 村上ノ(五)

あると思つた其人は三丁目阿部榮造商店と書いてある表看板の家に姿を消した 江名濱にて

夫れが八度目の情死と解る 結核新藥發見 鹿兒島高等農林學校長吉村清尙氏はスルメの研究に没頭して居た結果結核の藥品を發見